

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (そのほか必要があるときはあらかじめ公告いたします。)
公告掲載方法	当社ホームページ http://www.ichikoh.com/
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに 日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	1,000株

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、
特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

世界の技術光源になる。

ICHIKOH

市光工業株式会社 〒141-8627東京都品川区東五反田五丁目10番18号 TEL.03-3443-7281 FAX.03-3443-7233 URL : <http://www.ichikoh.com/>

第80期

中間報告書

2009年4月1日から2009年9月30日まで



ICHIKOH

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループの2009年度第2四半期連結累計期間の事業概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、昨年度からの世界的経済危機による減速状態を脱すべく、各国とも景気刺激策を打ち、緩やかながらも復調の兆しが見えているところもあります。特に、中国やインドなどは早期にプラス成長にもどり、世界経済を牽引する大きな力として期待されています。

一方、日本経済は、この経済危機や為替の影響を受け、電機、自動車などの輸出産業を中心に企業業績が落ち込んでいますが、部分的ながら景気刺激策が効果を上げつつあります。

当社グループが属する自動車業界では、約7,000万台あった2008年の世界の自動車生産が大幅に落ち込んでいます。日本国内でも2009年度上期の自動車生産台数は、約386万台（対前年度同期比33.5%減）と大幅な生産減となっています。

また、日本のカーメーカーの主要輸出先であるアメリカでは、2009年（1月－9月期）の集計で約794万台（対前年同期比27.5%減）と大幅な販売減となっています。しかしながら、世界的な減少の中において、中国、インドなどでは、自動車生産・販売台数ともに増加傾向にあります。

さて、当社では、この厳しい経済環境下でも収益性を向上させるための経営体質改善策として、国内6工場のうち2工場を閉鎖する等の対応を図っており、9月末には中津川製造所の閉鎖を実施し、12月には大泉製造所の閉鎖を予定しております。また、併せて固定費の適正化のために早期退職制度を実施し間接のスリム化を進めております。

業務改革として導入しましたICHIKOH7000が効果を生んでおり、製造現場では不良品や在庫の低減が進んできております。間接部門においても初期流動のスムーズな立上りや目標原価への早期織り込みが図られるようになり、将来の利益に寄与しつつあります。

このような経営体質改善策を打ってまいりましたが、当社グループの2009年度第2四半期累計期間の連結売上高は41,355百万円（前年度同期比29.7%減）となりました。収益面では、営業損失1,744百万円（同営業利益886百万円）、経常損失1,504百万円（同経常利益1,516百万円）となりました。純損失は4,686百万円（同純利益334百万円）と大幅な減収減益となりました。

今後の我が国の経済見通しは、世界経済危機からの復興が続くものと想定され、自動車業界もさらに在庫調整が進み、また、各国の景気刺激策の効果が現れつつあるものの、来年度以降の予測が立たない状況です。しかし、中国・インドを始めとするアジア圏を中心とした自動車生産・販売は拡大傾向にあり、当社グループでは、この拡大するアジア圏での販売をさらに強力に進めております。生産面や収益面では、関係会社やヴァレオ拠点での生産分担及び他のサプライヤーとのアライアンス等によって効率的な売上と収益向上を図っております。

以上により、2010年3月期の連結決算見通しとして、売上高90,500百万円、営業利益1,000百万円、経常利益1,400百万円、当期純損失2,800百万円を予定しております。

当社グループは今後も、アジア圏を中心としたグローバル企業として、経営体質のさらなる強化と業績向上に向け邁進していく所存です。

株主の皆様におかれましてもより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

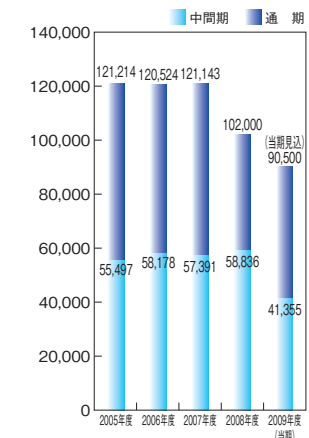
2009年12月

代表取締役社長
河島 一夫

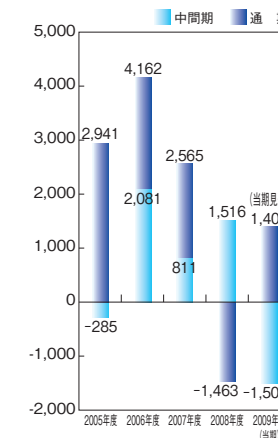



連結財務ハイライト

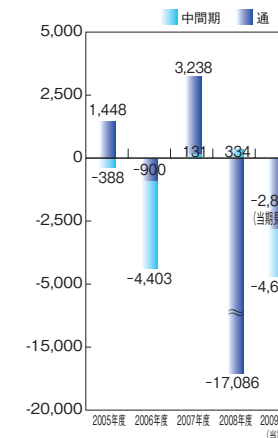
売上高



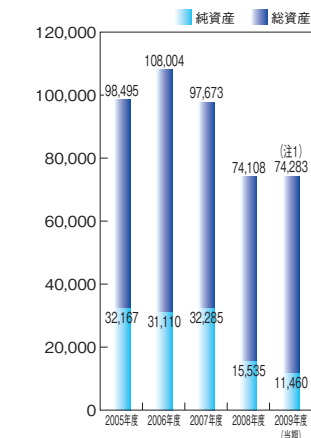
経常利益



中間(当期)純利益



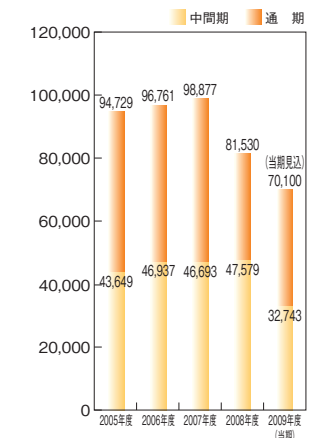
総資産・純資産



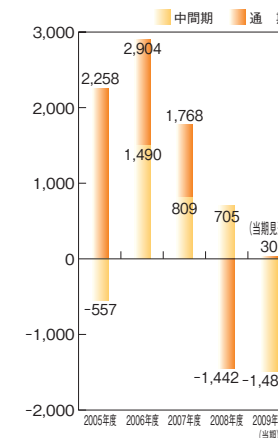
(注1) 2009年度の数値は中間連結会計期間末の数値です。

単独財務ハイライト

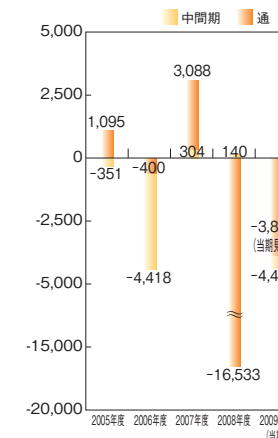
売上高



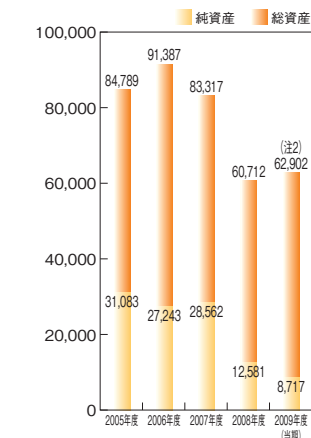
経常利益



中間(当期)純利益



総資産・純資産



(注2) 2009年度の数値は中間期末の数値です。

四半期連結決算概要

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前連結会計年度末 2009年3月31日現在	科 目	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前連結会計年度末 2009年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	37,871	36,771	流 動 負 債	30,752	30,735
現金及び預金	10,578	10,729	支払手形及び買掛金	13,163	12,445
受取手形及び売掛金	16,653	15,237	短期借入金	3,658	3,870
有価証券	86	86	1年内償還予定の社債	60	100
商品及び製品	3,998	3,856	1年内返済予定の長期借入金	5,139	5,624
仕掛品	1,007	1,123	リース債務	1,574	1,186
原材料及び貯蔵品	1,987	2,397	未払法人税等	189	78
繰延税金資産	73	75	未払費用	3,003	2,500
その他	3,509	3,287	製品保証引当金	774	966
貸倒引当金	△ 22	△ 23	その他	3,190	3,963
固 定 資 産	36,411	37,336	固 定 負 債	32,069	27,837
有 形 固 定 資 産	28,567	29,520	長期借入金	21,943	17,182
建物及び構築物	7,849	8,276	リース債務	2,005	1,897
機械装置及び運搬具	7,264	8,061	退職給付引当金	7,244	8,036
工具、器具及び備品	1,794	1,946	繰延税金負債	413	241
土地	5,700	5,820	その他	462	479
リース資産	3,518	3,017	負 債 合 計	62,822	58,573
建設仮勘定	2,439	2,397	純 資 産 の 部		
無 形 固 定 資 産	191	210	株 主 資 本	11,264	15,951
投 資 其 他 の 資 産	7,652	7,605	資本金	8,929	8,929
投資有価証券	4,691	4,212	資本剰余金	7,840	7,840
繰延税金資産	249	286	利益剰余金	△ 5,476	△ 789
その他	2,732	3,126	自己株式	△ 29	△ 29
貸倒引当金	△ 21	△ 21	評価・換算差額等	△ 1,911	△ 2,517
資 産 合 計	74,283	74,108	その他有価証券評価差額金	217	△ 401
			為替換算調整勘定	△ 2,129	△ 2,115
			少 数 株 主 持 分	2,107	2,100
			純 資 産 合 計	11,460	15,535
			負 債 純 資 産 合 計	74,283	74,108

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
売上高	41,355	58,836
売上原価	37,056	50,509
売上総利益	4,299	8,326
販売費及び一般管理費	6,043	7,440
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,744	886
営業外収益	725	986
営業外費用	486	356
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,504	1,516
特別利益	55	41
特別損失	2,881	519
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△ 4,330	1,038
法人税等	271	564
少数株主利益	85	139
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 4,686	334

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,046	△ 469
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,797	△ 960
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,138	3,429
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 48	△ 28
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 753	1,970
現金及び現金同等物の期首残高	9,882	12,611
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,128	14,581

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

新たなスタートで 新時代の荒波を切り拓く！

今年6月の株主総会で新社長に就任した河島一夫。今回は河島の経営に対する考え方と、具体的な将来構想についてインタビュー形式でご紹介します。

全従業員とエクセレント観を共有したい。

2015年までにICHIKOHはこうなる。その目標を全員で共有することが大切

まず何が目標なのかを全員が同じ言葉で語れるようにしたいと思っています。それには従業員とエクセレント観を共有しなければなりません。近い将来、全従業員がICHIKOHで働いているという満足感を持って働き、周囲からは「さすがICHIKOHですね」という評価を頂ける会社になりたい。そのために我々が持たなければいけないのは自信（Confidence）です。もっともっと自信を持てる会社になる。これが目標です。2014年の春には、全従業員が、対お客様、対株主様、対サプライヤー、対競合メーカーでも、すべてに自信を持って接している姿を作りたいと考えています。

従業員が働く自信や満足を持てるための方策は？

成長のための7axes&ICHIKOH7000は、永久に進化し続ける我々のバイブル

2008年10月以降、私達は7axesという経営指針を打ち出しました。これは全ての部門が品質を支えるという考え方です。ICHIKOH7000はレベル1からレベル5までの進捗状況を監査する仕組みです。私達の目標は、2010年下期にレベル5を達成することです。しかしこれで終わりではありません。レベル5は成長し続けます。例えば、目標が達成できないとか・・・問題は毎日出てきますし、そこで学んだものは再びICHIKOH7000に反映されますから当然ながら要求レベルは飛躍的に上がります。つまり2010年下期に今のレベル5を達成しても、次の段階のレベル5-1、5-2、5-3と続く事になります。



具体的にはどういうことですか？

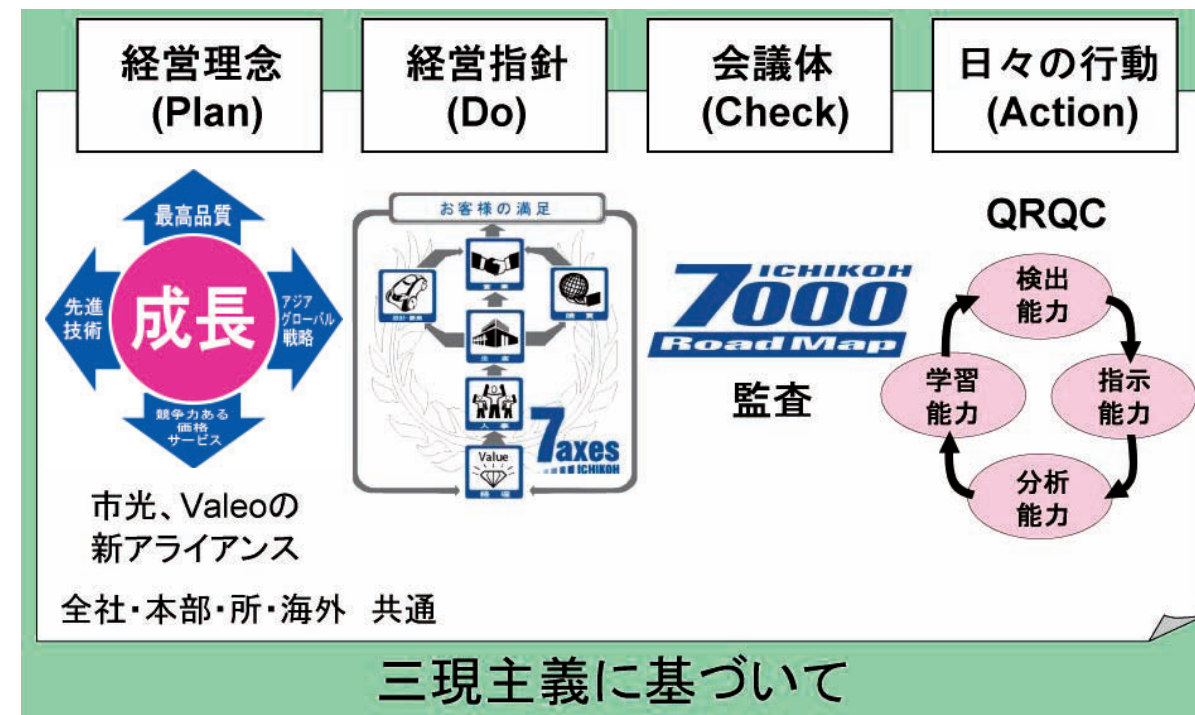
従業員満足度の高い会社を目指したい。

まず1番目に従業員満足度を高めたいと考えています。自動車産業で部品を作っている会社としてこのクラス最高の教育システムを持っている会社であり、素晴らしい論理的な給与体系を持っていて、かつ給与水準は一步抜きん出ているという状態です。

2番目に顧客満足度。常に顧客が求める先進技術が継続的に出せる会社、顧客が求めるコスト競争力の要求に継続的に応えられている会社です。

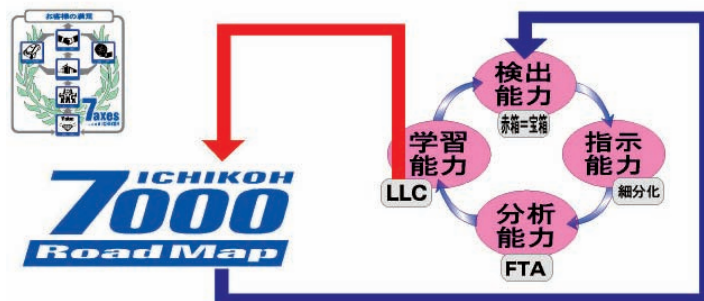
3番目は株主様への適正配分。従来3円固定で配当してきましたが、それでは不十分。我々が収益を上げた時、収益に見合う、かつ一步抜きん出た配当です。

これらが達成されていて、例えば「当社の先進技術が次の次の〇〇車に採用されるんですよ」とか、「私達が行っているスモールランプが世界を圧巻していきますよ」などと言え、お客様からは品質賞だけではなく、技術大賞、エコ賞もいただけるような・・・更には、「どうして5年で変わったのか？ICHIKOHを見学したい」と言われるレベルまで引き上げたいと考えています。



従業員の皆さんにも終わりの無いエンドレス改善を体感してもらいたいですね。それこそ人間が成長する原点。ここまで行ったら終わりだと思えば人間終わり！成長や欲求は尽きないもの。成長するからこそ、株主様への還元も可能になるのですから・・・。7axes&ICHIKOH7000は、永久に成長し続ける我々のバイブルに他なりません。

エンドレス改善のイメージ



将来レベル5に到達しても、レベル5は進化する。

日々のQRQCは、常に新たなLLCを生み出している。LLCの内容がICHIKOH7000のロードマップに反映される事で、レベル5には更に高度な目標が設定される。このサイクルが繰り返され、成長が止まることは無い。

今後は三現主義を体現できる従業員の育成が急務

問題から導き出したノウハウは、LLC (Lesson Learned Card) というデータベースに書き込まれ、私達の財産になります。これは全従業員で作上げるもの。LLCをロードマップに組み込み7axesのレベル5を永遠に回し続けるのは各7軸の管掌や本部長ですが、実際に取り組んでいるのは従業員の皆さんです。成功へのカギとなるのは、正に「三現主義」そのもの！イメージや想いだけでは上手くいきません。だからこそ全従業員が三現主義を体現できる事が必要。今後は、そのための人材育成も急務と考えます。

その先を支える仕組み

2010年以降継続して経常利益率5%以上を確保できる構造作り、組織作り、人づくりを強力に推進します。今回の再構築計画によってICHIKOHもより筋肉質になるでしょう。問題はその先です。その先のことを考えると、開発、生産部門を強化する必要があります。そのために機能するのが、適正な技術開発のためのTDP (Technology Development Plan) であり、高度な生産技術を支えるEDP (Engineering Development Plan) です。更に新たな仕組みとしてプラスしたのが人を成長させるPDP (Personnel Development Plan) です。

人を成長させるPDPとはどんな考え方ですか？

PDPが目指す「ひとものがたり会社」

7axesのレベル5を永遠に回し続ける事が出来る人間をどのように作るかが課題となってきます。そこで先ほどのPDPが機能します。最高のオペレーター、最高の班長、最高の事務職、最高の技術員、最高のスタッフを作るためにはどんなプロセスで何を教えていけばいいのかを決め実践するのがPDPです。

7月にPDP部隊を作りました。サブタイトルは「ひとものがたり部門」。例えば、Aさんの入社から退職するまでの映画を撮るとしましょう。その間には苦しい事も悲しい事もありますよね。だから物語になるわけで、単調な毎日では面白くありません。苦しみの中に、ふとした喜びや楽しさがある。だから物語になるんです。従業員一人ひとりの皆さんに、60歳までに30歳・40歳・50歳の節目ごと、どうやって成長したいという「ひとものがたり構想」を書いてもらいます。皆さんはこの会社で何を実現したいですか？それを実現する為の教育を作りましょう。皆さんが勉強している姿を見るのが楽しいし、皆さんが成長するのを見るのが、私の楽しみでもあります。自分が主人公の映画を見たくありませんか？従業員の皆さんに市光に入って良かったと思って欲しい。それを感じ、経営に携わっていて良かったと思いたいですね。



皆さんが成長する姿が見たい。

QRQCは母親なら100%共感できる部分があるコンセプト

母親はいつも子供を成長させたい、勉強してもらいたい、後ろ指を指される人間にはなって欲しくないと思っています。私も会社と一緒に時間を過ごしている従業員の皆さんが、日々成長することを見守っていく。子供の成長を願う親の気持ちを経営に活かしたいと思っています。例えば、母親というのは子供に教育が行き届いているかチェックします。ご飯を食べる前に手を洗ったの？と母親は聞きます。その時子供に「うん洗ったよ！」と言われ「ふ～ん」と答えるのは悪い母親。ちゃん

んと手を見て「ちゃんと洗えてるね」と褒めてあげられるのが良い母親だと私は思います。ICHIKOHの社内監査の仕組みである「ICHIKOH7000」も褒める監査を心がけたいですね。褒めることがコミュニケーション。実際QRQCはITも使っていないし、お金もかからない。ただ人間らしく改善(成長)をしようというキーワードがあるだけ。これからはバランスシートとPLだけの経営では駄目だと思うし、個人こじんの成長なくして未来はありません。

株式の状況 (2009年9月30日現在)

株式の総数及び資本金

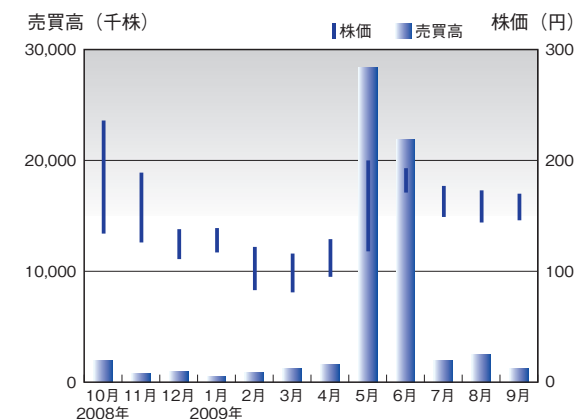
資本金	8,929,538,428円
発行済株式総数	96,036,851株
発行可能株式総数	200,000,000株
期末株主数	8,710名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
ヴァレオ・バイエン	30,339 千株	31.63 %
トヨタ自動車株式会社	5,869	6.12
株式会社みずほコーポレート銀行	4,775	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,051	4.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,688	3.85
日本生命保険相互会社	3,687	3.84
ダイハツ工業株式会社	2,712	2.83
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,344	2.44
みずほ信託銀行株式会社	1,913	1.99
株式会社三井住友銀行	1,231	1.28

- (注) 1. 出資比率は自己株式 (117,639株) を控除して計算しています。また、表示単位未満を切り捨てて表示しています。
 2. 発行済株式の総数の10分の1以上の数を保有する大株主1名を含め、上位10名の株主を記載しています。
 3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、4,051千株であります。

株価及び株式売買高の推移



会社概要 (2009年9月30日現在)

商号	市光工業株式会社
設立	昭和14年12月20日
事業所	
本社	〒141-8627 東京都品川区東五反田5-10-18 TEL 03 (3443) 7281
テクニカルセンター	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1488
伊勢原製造所	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451
大泉製造所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 2271
藤岡製造所	〒375-8508 群馬県藤岡市東平井1467 TEL 0274 (23) 2211
ミラー製造所	〒375-8507 群馬県藤岡市藤岡1360 TEL 0274 (23) 2121
中部営業	〒465-0025 愛知県名古屋市名東区上社4-130 TEL 052 (709) 2011
札幌営業	〒080-0001 北海道札幌市中央区北一条西4-2-2 TEL 011 (232) 0654
大泉営業	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 0760
大阪営業	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-16-3 TEL 06 (6384) 6551

取締役及び監査役

取締役会長	市川 侑 男
代表取締役社長	河 島 一 夫
専務取締役	安 藤 信 雄
専務取締役	小宮山 文 夫
常務取締役	後 藤 博 美
常務取締役	米 山 洋 一
常務取締役	田 村 順 一
取締役	アリ・オードバディ
取締役	ティエリー・カランカン
常勤監査役	大 坪 千 二
常勤監査役	住 野 稠 生
監査役	堤 淳 一
監査役	蛭 子 優

使用人数

連結	3,315 (635) 名
単体	2,150 (217) 名

- (注) パート・アルバイト等、契約期間に定めのある使用人は()内に外数で記載してあります。

ホームページのご案内

会社案内、新製品情報、採用情報、株主・投資家情報などの企業情報を掲載しております。

<http://www.ichikoh.com/>

